

永青文庫展示室開設10周年記念  
RKK開局65周年記念

# 細川方守シヤ

*Haakawara Yashia*



2018年8月4日・土―9月24日・月祝

前期展示 8月4日(土)～8月26日(日)

後期展示 8月28日(火)～9月24日(月祝)

※作品保護のため、会期中に部展示替えをを行います。

※開館時間/午前9時30分～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)

※休館日/8月6日(月)、20日(月)、27日(月)、9月10日(月)、18日(火)、9月3日(月)は障がいのある方々の鑑賞デーとして開館。

【主催】熊本県立美術館/公益財団法人永青文庫/熊本大学永青文庫研究センター

熊本日日新聞社/RKK熊本放送  
【後援】熊本県文化協会/熊本県美術家連盟/熊本県市町村教育委員会連絡協議会/熊本県  
団画工作・美術教育研究会/熊本県高等学校教育研究会美術・工芸部会/熊本県高  
学校文化連盟/熊本県博物館連絡協議会/NHK熊本放送局/エフエム熊本/FM791

【特別協賛】



熊本県立美術館「本館」



散りぬべき

時知りてこそ

世の中の

花も花なれ

人も人なれ

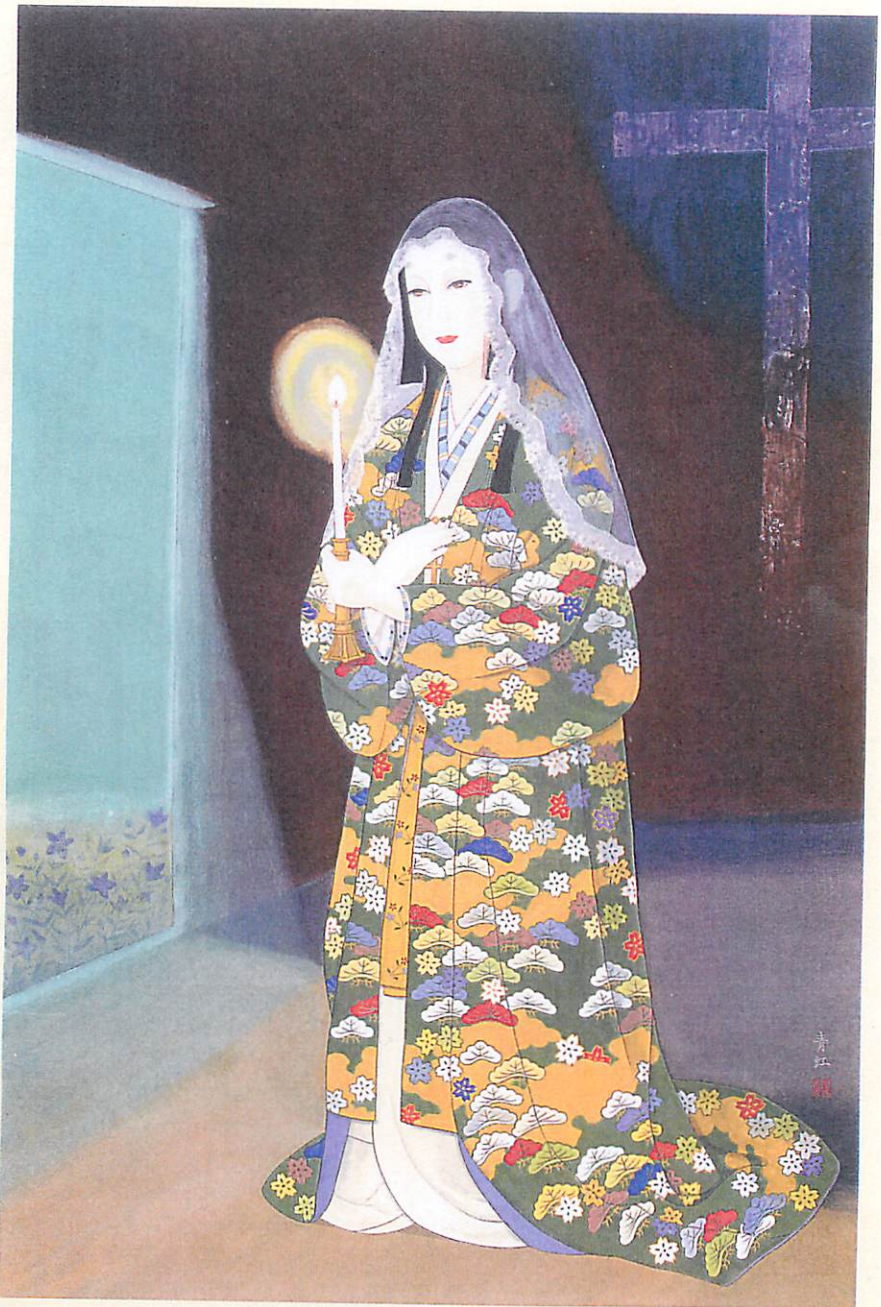
ガラシヤ時代の句

## ガラシヤを画題とした 最新の歴史画

124 往く道に光明を！ 一面

内田青虹  
紙本着色 額装  
縦一九三・九cm 横一三〇・三cm  
平成十四年(二〇〇二)  
上智学院所蔵

薄暗い空間の中、鮮やかな着物を纏った女性が燭台を手に立っている。彼女が身につけるヴェールとロザリオ、そして背景に浮かぶ十字架が、彼女がキリシタンであることを示し、画面左下の庭に見える桔梗の花が、明智一族の系譜に連なる者であることを暗示している。誰も目にしたことのない歴史上の人物を描く上で、持物やモチーフによってその人物を示す方法は、歴史画の伝統的手法である。その意味で、平成十四年(二〇〇二)に制作された本作品は伝統に則した最新の歴史画といえるが、とりわけこのガラシヤ像に特徴的なのは、彼女がやや年長の女性として描かれていることであろう。本作品を制作したのは、山口出身の女流画家内田青虹。自身のルーツが明智家にあることを知った内田は、「鎮魂の思い」で細川ガラシヤを描くことから画業をスタートさせたという。以来ガラシヤは内田のライフワークともいえるモチーフとなったが、そのガラシヤがやや年長の女性とされているのは、内田自身の画家としての成熟ぶりが投影されているからなのかもしれない。様々な変遷してきたガラシヤのイメージは、画家の内面を投影する対象にもなったのである。(林田)



キリシタンとしてのガラシヤを描いた最初期の絵画